



ふりがな 氏名	やぐら のりか	都道府県	奈良県	
	<b>檜 乃里花</b>			
所属/肩書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・奈良教育大学ユネスコクラブ 副代表</li> <li>・奈良教育大学 ESD ティーチャープログラム履修生</li> </ul>			
私のESD活動	<p>子どもたちの行動化を促す教育的取り組みと、心の豊かさを育む対話的取り組み。学びを支える安全への配慮</p>			
関心・活動のSDGs				

## 活動の概要

私たち奈良教育大学ユネスコクラブの活動理念は、「ESDを実践できる教員になること」「ESD行動化を楽しく追及すること」の2点である。具体的な活動内容として、本年度より「集まれ！ESD 子ども広場」という企画を大学主催のもとで開催した。これは、前年度までの「ESD子どもキャンプ」の流れを受けて、学生主体のイベントであるという趣旨は変えずに、日帰りのイベントとして企画されたものである。参加者の子どもの数は10名と少数だったが、その分ひとりひとりに充実した学びを提供することが出来た。テーマは「ならまちの町家～昔の人の知恵や工夫から学ぼう～」であった。大学近辺の奈良町には、昔ながらの町家が数多く保存されており、今回はフィールドワークとして奈良町の実地調査を各班に分かれて行った。「町屋の工夫ビンゴ」を作成し子どもたちと取り組んだり、町屋の伝統を紹介する公共施設を訪れたりした。子どもたちは、先人の暮らしの工夫を自分たちの目で確かめて、そこから社会が持続していくためのヒントを見出そうと懸命に取り組んだ。このように学びの面でも充実した企画であったが、それ以上に時間を費やしたのは安全面への対策である。近年の異常ともいえる気候の変動に、昨年度のキャンプでは多くの体調不良者が出た。その反省を踏まえて、今回は熱中症対策と緊急時対応のマニュアル化を図った。その甲斐あって、本年度はすべての子どもたちが無事に帰ることができた。

## 今後の活動の展望と周囲や社会への還元

コンファレンスでの学びを、ユネスコクラブ部員をはじめとする周囲の人々に伝えたいと思う。伝えることで、自分の中の学びを定着させることができ、また周りの行動化を促すきっかけにもなるからである。奈良教育大学ユネスコクラブは、教員を目指している学生が部員のほとんどを占めている。「教育でより良い未来をつくる」という今回のテーマは私たちにとって一番関心の深いテーマであるといっても過言ではない。今後続いていく「集まれ！ESD 子ども広場」の内容が、教育的な観点でより充実したものになるよう、部員との学びの共有を徹底したい。具体的には、報告会を開き、ワークショップを展開したいと考えている。

また、他団体の活動の例を参考にしながら、「地域規模でできるESDの行動化」を追求したい。具体的には、地域の人との連携の取り方を工夫していきたい。「集まれ！ESD 子ども広場」が今後規模を拡大し、より多くの地域の人を巻き込む企画となるよう、多くの学びを得て帰りたいと思う。教育は、地域の承認を得て初めてその役割を全うするものであると思うし、自分たちの活動に地域を巻き込むことこそが、地域社会への還元であると考えている。